

2024年度大学院秋季入学式学長訓示（2024年10月1日）

本日、広島市立大学大学院に入学された皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。ご関係者の皆様、入学後に学生を指導予定の先生方にも、心よりお祝いを申し上げます。

広島市立大学は「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念に掲げて1994年に開学しました。本年は開学30周年の記念の年です。大学院には国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科、平和学研究科の4研究科があり、専任教員197名が在籍し、少人数教育を実現しています。本日、大学院に入学された皆さんには、本学の恵まれた教育研究環境を十分に活用いただき、勉学と修士論文研究、博士論文研究に励まれることを期待します。

さて、皆さんは本日、大学院に入学されました。大学には学部もあります。博士前期課程に入学された皆さんはこれまで学部で学ばれていたと思います。それでは、学部と大学院の違いは何でしょう。私は学問との向き合い方が違うと考えています。学部においては、学問は学びの対象です。学部教育においては体系化された学問をカリキュラムに沿って学ぶことが基本です。それに対して大学院では、学問は学びと共に研究の対象です。大学院では学問を発展させる、すなわち研究に主眼を置いた教育が行われます。

大学院博士前期課程では、専門分野の高度な知識、技能の習得に加えて、新たな知の探究のために研究課題を設定し、修士論文研究を実施します。また、研究を進めていく上で必要となる様々なスキル、たとえば文献の読み方とか、論文の書き方、学問的な討論の技法などを身に付けることも大切です。

さらに、大学院博士後期課程においては、研究者として独り立ちするために、新たな学問領域を開拓し、あるいは発展させる研究を行い、博士号授与に値する学位論文にまとめることが要求されます。

そこで、これから大学院において研究に向き合う皆さんに私からアドバイ

スをしたいと思います。皆さんはこれまでも学部課程において、あるいは博士前期課程において研究に従事された経験はあると思います。そして、研究には失敗がつきものであることもよく知っていると思います。実際、研究の遂行にあたって、何事も順調に進み、優れた結果がすぐに得られることは極めて稀であり、通常はいわゆる失敗をいやというほど味わうことが一般的です。

誰でも失敗を重ねることはいやなものです。何度も失敗を重ねるうちに、つい安易な道を選ぼうという気にもなります。例えば、高い研究目標を掲げて研究を始めても、よいアイデアが浮かばず、あるいは浮かんだアイデアも検討を重ねていくうちに解決困難な問題点が見つかることも多々あります。そうしたとき、これ以上の失敗を恐れるあまり、研究目標を下げ、既存のアイデアを組み合わせ、それに少しだけ新しいことを加えればよいのでは、といった誘惑にかられることは、研究者であれば誰でも経験することです。

そうした誘惑に負けそうになったとき、是非、先人の言葉を思い出して下さい。例えば、米国の発明王トーマス・エジソンは有名な「失敗は成功の母である。」という言葉を残しています。逆に言えば、失敗なくして成功はない、ということです。同じく米国の未来学者レイ・カーツワイルは

「失敗とは、延期された成功のことだ。」

と言っています。さらに、2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏も次のように言っています。

「無駄なことを沢山しないと、新しいことは生まれてこない。」

研究に限らず失敗を恐れる人間の心理に関しては、「トム・ソーヤーの冒険」などの著者である米国の作家マーク・トウェインが次のように言っています。

「やったことは例え失敗しても20年後には笑い話にできる。しかし、やらなかったことは20年後には後悔するだけだ。」

ただし、失敗したときにどのように考えるかは大事です。米国の自動車王ヘンリー・フォードは次のように言っています。

「本当の失敗とは、失敗から何も学ばないことである。」

こうした先人達の格言を胸に、失敗を恐れず、果敢に新しいことに挑戦して下さい。若い時にこそ、向こう見ずとも言えるような挑戦が可能です。大学院での皆さんのこれからの挑戦に期待します。

もう1つ、研究に関するアドバイスをします。米国のベンチャー企業であるオープンAIが2022年11月に公開した生成AIであるChatGPTは、その能力の高さと利用範囲の広さから瞬く間に世界中に普及しました。世界中の先端IT企業が生成AIの開発に乗り出し、猛烈な勢いで生成AIを様々な分野において活用することが広まりつつあります。研究においても、生成AIを積極的に活用することで革新的なアイデアを生み出すチャンスが広がります。その一方で、生成AIで得られる情報は、原理的には過去にどこかで知られていた既知の情報とその組み合わせであることには留意すべきです。虚偽の情報を生成することがあることも知られています。さらに、元となる情報自体が地域や時代の片寄りを反映している可能性も認識しておくべきでしょう。人間の創造性、感情、倫理も生成AIには代替不可能です。

生成AIは極めて高機能で有用なツールですが、あくまでツールです。私たちは、人間としての価値観や倫理を守りながら生成AIを使いこなすことで、より快適で持続可能な未来を築くことができます。そのためには、人間だけが持つ能力、例えば創造性、審美眼、倫理観、他人への共感力、コミュニケーション能力等を日頃から磨き続けることがこれまで以上に重要となります。こうした点を忘れないようにしながら、皆さんのこれからの研究に生成AIを活かして下さい。

以上、皆さんのこれからの大学院での勉学と研究が実り多いものになることを祈念して、私の訓示とします。本日はご入学、まことにおめでとうございます。

2024年（令和6年）10月1日

広島市立大学長 若林 真一